新聞報道の記事切り抜き

京都新聞　平成29 年3 月14 日 （ 火 ）

人文学の重要性を語る

京大人文研 3教授が退職記念講演

人文学について語り合う京都大人文科学研究所の（左から）大浦、冨谷、山室の3教授＝京都市左京区・京都大時計台記念館　撮影・薄田和彦

京都大人文科学研究所を年度末に退職する3教授の記念講演会「三酔人　人文問答」が13日、京都市左京区の京都大時計台記念館であり、それぞれの専門の立場から「人文学」の意義や

が専門の大浦康介教授は「人を説得するだけではなく、喜ばせ、感動させる機能がある」と「おしゃべりの効用」を説いた。今の文学が「描写」よりも「語り」を重視していることに触れるのでは」と話した。

冨谷至教授（中国法制史）は、中国・漢代の木簡や竹簡に記された用語の辞書編さんに取り組んだ共同研究について、「なぜこのような漢字や熟語が使われたのか。その必然性を考えることで、当時の歴史や思想、政治に迫ることができる」と語った。

2013年から15年まで同研究所の所長を務めた山室信一教授（近代法政思想史）は「〈転がる石〉の効用」と題し、人文研も含めて三つの研究所に勤めた学者人生を振り返った。最後に「今役に立たなくても、いつか意味をなす『無用の用』が大切だ」と人文学の重要性を訴えた。（阿部秀俊）